



# レポート の十戒

---

レポート作成の基礎

熊本大学

横瀬久芳

“課題文を読んで設問について、A4用紙10枚程度のレポートにまとめて、来週の月曜日までに提出せよ。”

<とか書いてあると、皆さんは>

何をどうしたらいいの？

<という反応になるのが常です。>

レポートとは、課題内容をきちんと理解していることを読者（担当教員）に説明する文章です。

パターンを理解して、機械的に原稿をまとめていければ楽になります。

# 絶対にやってはいけない事：剽窃・盗作

**剽窃の実例** 下記のレポートは、深海編のLesson7で提出された剽窃(赤字の部分)の一例です。キーワードは当然重複しますが、それ以外の文章を丸ごと書き写すのは剽窃と呼ばれ、全体の30%以上あった場合、問題となります。みなさんも、自分の言葉を大切にしてください。

私は、テレビで深海魚をおもちゃのように、面白く扱っていることに疑問を持ちます。(Ts)海洋生物は、生き残りをかけて、様々な工夫をしています。特に、一次生産者のいない深海領域で主に生活している深海の生物たちは生き残るために、泳がなくても沈まないようにする、敵に見つからないようにする、めったにありつけない食料を確実にしとめる(p105)ための工夫をしています。深海魚は高圧の環境下で生活しているため浮き袋が圧縮されてしまい、ガスによる調整では十分に機能を果たせません。そこで、ガスの代わりに脂質やワックスを浮き袋に充填して、浮力材に活用している深海魚がたくさんいます。(p106)中性浮力に向けた深海魚の努力はまだあり(p107)、塩分の少ない水っぽい体液で低密度化を実現させたり、高密度部位を極力低減して軽さを追求しています(p107)す。また、中深層の深海魚は、目の周囲や体の側面、といった場所に発光器を発達させ、生物発光を利用しています。深海魚の発光方法には、自力発光と共生発光の二種類があります。深海魚の発光には、カモフラージュ、捕食、仲間とのコミュニケーションの役割があります。深海魚はめったにありつけない食料を確実に仕留めるため、内側に反り返った大きな牙を発達させたり、大きな餌を逃さないよう、開口範囲を広げる目的で顎の稼働領域が大きくなったり、大きな餌を丸呑みするために胃袋を大きく膨らませたりしています。深海魚のいかつい顔は、少ないチャンスをもものにするための形態上の進化なのです。さらに、深海魚は低水温下で成長が遅延し、成熟期も遅れ、結果として長寿命になったために、巨大化すると考えられています。このように、深海魚は過酷な深海底で生き抜く為に現在のような形態になっています。ただ単に見た目の面白さをおかしく取り上げるのではなく、その発達に至った経緯や理由を取り上げ、深海魚の生き方を尊重していただきたいです。(Cs)

POINT: 恐らく、使った事のない言葉が随所に現れているために、文脈がちぐはぐ(稚拙な表現とアカデミックな表現が混在する)なのでコピーアンドペーストが発覚します。

# 記述問題の難易度と対処法

---

“航海時の位置把握”について論述せよ。

(**超難問**: 基礎知識が必要、適切な専門用語を配列する。加点法: 専門用語×配点、文章力、知識力)

“航海時の位置把握”について下記の文章を読んで要約せよ。

(**難問**: 要約すべき範囲は限定されているが、文書の趣旨を理解できないと点数が上がらない)

“航海時の位置把握”について時計の発達という観点から下記の文章を要約せよ。

(**普通**: 文章の趣旨は、“時計の発達”との関連である事がヒントとして示されている。)

“航海時の位置把握”について、時差、ジョンハリソン、クロノメーター、原子時計の用語を用いて下記文章を要約せよ。

(**簡単**: この要約をまとめる上で、時間や時計の概念を持ち込まないと設問の答えにならない事が示されている。)

# (例) Lesson 2 の場合

---

## <設問>

教科書の”1.1 大航海時代～現在：海洋進出と時計の発明(p. 1～11)を読んで既定の文字数で要約せよ。なお、レポートのトピックセンテンスの後ろに(Ts)と、そしてコンクルーディングセンテンスの後ろに(Cs)と記入する事。更に、対象箇所を読んでいる事が読み手に伝わるように、専門用語を複数個加えてレポートを作成する事。

## <書くべき要点の解説>

課題文は、よくよく読むと、地球と太陽の位置関係から、地球上の位置と時間が生まれたことがわかります(これが主題:Ts)。つまり、地上の位置と時間の関係はバビロニアの時代より、その概念が脈々と人類に受け継がれているのです。現代でも時計が大事な道しるべとなっている事を論述する(ここがSS)。つまり、テーマは、「時計発明(日時計、クロノメター、原子時計)と地球上の位置把握」の密接な関係性(Cs)です。

# 1パラグラフ=1テーマ

---

抽象的なテーマ(全体像)を、一つだけ決める。(TS)

そのテーマに関する具体的な例や詳細を論理的な順番(時系列、空間的、etc)で解説する。(SS)

それらをまとめて、著者のメッセージを読者に伝える。(CS)

この場合、メッセージは、より客観的で、公平な立場からの記述が好まれる。

エントリーシートでは、より客観的に自己分析できている事をアピールすべきで、感情的な表現は具体性がなく、むしろマイナスとなる可能性が高い。

# 文章力をアップするには

---

段落(パラグラフ)の構成要素をくっきりさせる。

トピック・センテンス(Ts)

サポーティング・センテンス(Ss)

論理関係明示子

コンクルーディング・センテンス(Cs)(締めくくり文)

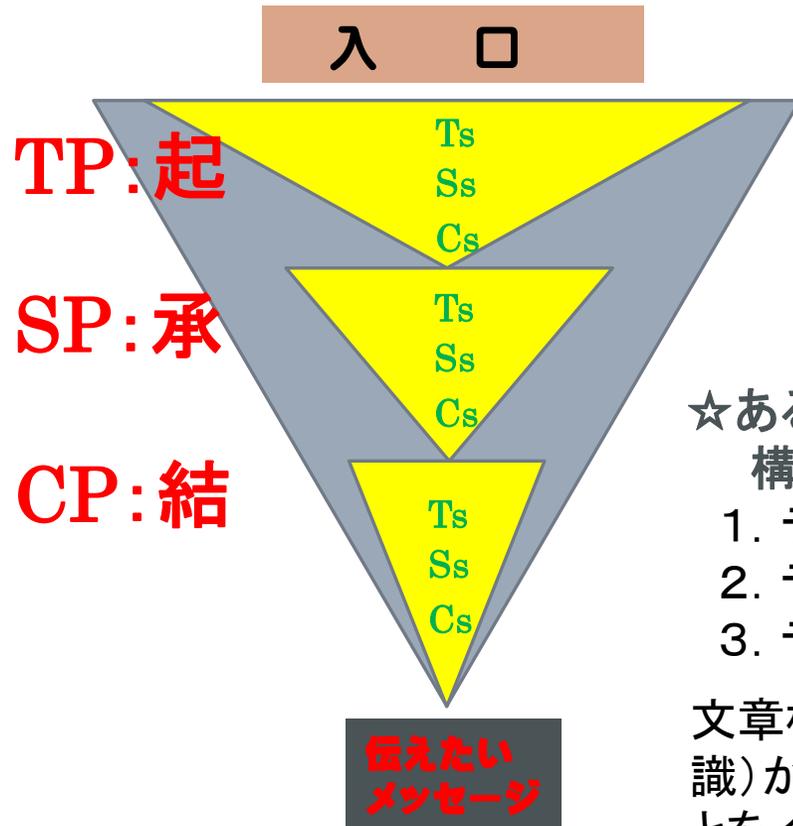
パラグラフのベクトル

<仕事の文章は>

起承転結ではなく、“起・承・結”が基本

# 論述に際しての基本姿勢

メッセージが伝わるように、論理展開が明確になるように記述する。論述は、逆三角形構造が基本。



☆1パラグラフは、200字前後が目安で、下記の文章群が含まれる。

Ts: トピックセンテンス(起)

Ss: サポートセンテンス(承)

具体例なので複数の文章

Cs: コンクルーディングセンテンス(結)

☆あるテーマに関して論じる場合は、3パラグラフ構成が最も一般的である。

1. テーマとなる対象の提示(起): TP
2. テーマを具体的に記述する(承): SP
3. テーマに関するまとめを行う(結): CP

文章校正は全体として、広い視点(一般論や共通認識)から焦点を絞り込み結論に選択の余地がないことをイメージさせる。

うまくいくと、メッセージが相手の心に深く突き刺さる！！

# 各Lessonのレポートの書き方

---

1. トピックセンテンスの最後に(Ts)といれ、コンクルーディングセンテンスの最後に(Cs)と入れる。
2. 設問をよく読み、解説すべきアイデアが何かを理解し、必要なキーワードを課題文章から取り出して説明する。
3. 設問だけで理解できない時は、解説やヒントを読み、再度課題文章を読み必要とされる内容をピックアップして、自分の言葉で解説を加える。
4. TsやCsは、設問と密接にかかわり、Csは設問の答えになっている必要がある。
5. 記述された文章が、原文と50%以上重複している場合は、剽窃と見なされる(現代では、30%以上重複で剽窃扱いされることがある)。単なる、語順の入れ替えでは、重複率の軽減には役に立たない。特に、多くの筆者は特徴的な言い回しがあり、それをコピー&ペーストした場合には、剽窃を判断され、0点となります。

# オンデマンド形式におけるレポート作成の注意点

---

レポートでは、以下の二点が重点的にチェックされます。

1. 課題文章をちゃんと読んで要約を作成しているか？
2. 設問の趣旨を理解して要約を作成しているか？

つまり、単なる作文では、上記の2点を満たさないのでは0点として評価されます。また、単に解説を焼きなました文章は、剽窃として処理されます。(近年、剽窃問題は深刻化しています)

読者(採点者等)に対して、客観的に上記2点を提示するには、

1. 課題文章内から専門用語(キーワード)のみを複数抽出し、自分の言葉で説明する。設問に直接関連しない内容は記述しない。
2. 設問に関連したTsを書いているか？Csは設問の答えとして成立しているか？

を再検討することです。

# レポート作成の十戒(1~5)

---

1. パラグラフには、トピックセンテンス(Ts)がなくてはならない。＜体言止めは使わない＞＜設問を反映しなくてはならない。＞
2. パラグラフには、サポーターセンテンス(Ss)がなくてはならない。＜箇条書きではない。設問のキーワードを詳しく説明しなくてはならない。＞
3. パラグラフには、コンクルーディングセンテンス(Cs)がなくてはならない。＜設問の答えとなる文章を書く＞
4. パラグラフは、一つのアイデアを記述した文章群でなければならない。＜TsやCsと関係のない文章を入れてはならない。＞
5. Tsはパラグラフの内容を端的に表す文章で、概ね一行以内でなければならない。さらに、読者には、内容を端的に示すKEY WORD(S)を提示しなければならない。＜文章の内容をコントロールするキーワードを記入する＞

# レポート作成の十戒(6~10)

---

6. 基本的にTsは、**パラグラフの第一文に**、そしてCsは**パラグラフの結論として最後**に来なければならない。そして、Ssは、TsからCsに至る道筋を記述しなければならない。
7. **要約は**、課題文章の内容を解説する事であって、**それ以外の範囲から情報を持ち込んで**はならない。要約は**個人の意見発表の場**ではなく、**データ(課題文章)の客観的整理の訓練**だからだ。
8. パラグラフ内のインデントや一行空けは、パラグラフの切れ目を表すため、むやみにそれらを用いるとその数だけTsとCsが書かなければならない。単なる設問に対する400字程度の解答なら、**むやみにインデントや改行**を使用してはならない。
9. 設問を解説する上で**必要な専門用語や概念**を**パラグラフ内のSsに反映**させなければならない。
10. 読者の混乱と時間浪費を招く、**無関係な文章**は入れてはならない。

# パラグラフに関する参考資料

## 小論文の評価シート項目: グローバルスタンダードに慣れる

Writer		Final mark:	
Assignment:			
	Comments	Mark	
Topic sentence / Main idea			
Paragraph unity			
Paragraph coherence			
Language use			
Strengths of the paragraph			
Weaknesses of the paragraph			

パラグラフの評価シート

Writer		Final mark:	
Assignment:			
	Comments	Mark	
Introduction / thesis statement			
Main body paragraphs			
Essay unity and coherence			
Conclusion			
Language use			
Strengths of the essay			
Weaknesses of the essay			

小論文の評価シート

# パラグラフの評価方法

## 1. トピックセンテンスとサポーティングセンテンス

---

### Topic sentence / main idea:

What is the topic of the paragraph? What is the main idea?

Does the paragraph have a topic sentence? Does paragraph have a concluding sentence?

If so, does it restate the topic sentence or sum up the information?

### Paragraph unity:

Does each sentence support the topic sentence?

If not, which sentence or sentences do not belong?

# パラグラフの評価方法

## 2. 一貫性

---

Paragraph coherence in various types of it

**Chronology:** (historical events, personal narratives, processes)

Order by time or order of events / steps

**Description:** Order by position, size, and shape of things

**Classification:** Group ideas and explain them in logical order

**Comparison / contrast:** Organize in point-by-point or block style

**Argumentation / persuasion and cause / effect:** Order from least important to most important

# パラグラフ評価方法

## 3. 文章の流れ

---

### *Paragraph cohesive devices*

**Transition words** : (e.g. before, likewise, however, for example, etc)

**Pronoun reference** :

(he, they, it, that, key words)

**Repetition of key nouns or ideas** :